

旭川では、多くの木彫家が北海道の豊かな木材を使って、数々の作品を生み出しており、優れた技能で作られた作品は、全国的に高く評価されています。旭川の木彫家が、伝統的工芸品産業大賞を受賞しているのもその証しです。平成29年度の大賞作り手部門功労賞を、道内ではただ一人、上西捷敏さんが受賞。旭川近郊の受賞者は、川上哲さん、中川貞司さん、菅野秀雄さん、上山勇次さんに次いで5人目となりました。

高い技能が評価



木彫家の上西捷敏さん
「木彫の上西」(豊岡14の7)では作品を展示販売している他、作業風景の見学もできる



木彫に取り組んで50年以上の上西さんは「木彫の醍醐味は、形のない物から作品を作り上げることです。昭和45年頃までは木彫りのクマが北海道土産の定番でしたが、徐々にブームが下火になって、今は、フクロウやウサギなど色々な動物を作っています。どの動物も、苦勞するのは表情です。動物の個性は顔で表現します」と話し、ほぼ毎日、朝8時から夕方6時まで仕事場に座り続けます。

旭川から
発信

旭川の 木彫家の 新たな挑戦

旭川木彫・工芸品協会

旭川は、家具や木工クラフトなどで多くの職人が活躍し、「ものづくりのまち」として知られていますが、木彫の分野でも様々な題材の作品が作られ、注目されています



菅野さんは、大まかな削り出しのみ機械を使うが、後は全て手彫り。ばん馬や競馬など、馬の作品も多く手掛けており、馬主として知られる歌手の北島三郎さんの元に作品が届けられ、感動した北島さんと会ったことも



旭川木彫・工芸品協会の作品

作品は、観光物産情報センターや道の駅あさひかわなどで販売しています。その他の販売先は市HPに掲載しています



北都工芸社（菅野秀雄さん）



木彫の上西（上西捷敏さん）



工房がんま
いわま つぎお いわま みきお
(岩間次雄さん・岩間幹雄さん)



木彫 上山（上山勇次さん）



親子の情愛が伝わってくる上西さんのこの作品は、旭川秀作民芸品展旭川市長賞を受賞。他の作品でも様々な賞を受賞している



木彫ナカガワ（中川貞司さん）



平成25年に掲示された、なんばグランド花月の玄関を彩る旭川木彫看板

オリジナリティーにあふれる 作品で旭川の木彫を発信

全盛期には1000人を超える木彫家がいた旭川。しかし次第に少なくなり、このままだと培ってきた木彫の技能が途絶えてしまうという危機感から、平成18年に旭川木彫・工芸品協会が結成されました。会結成の呼び掛け人であり、会長の菅野さんは「きつかけは、旭川空港での木彫展開催でした。団体としての活動を通じて、お互いに刺激を与えながら教え合うメ



旭川木彫・工芸品協会会長の菅野秀雄さん「北都工芸社」（東光4の4）で製作を行う

リットはとても大きいです」と会結成の意義を話します。

団体として活動することで、様々なチャンスも巡ってきました。同25年には、コンテストで選ばれ、吉本興業の劇場「なんばグランド花月」（大阪）に、クマやオオワシなど北海道の動物を彫った約30枚の旭川木彫看板が掲示されました。また、同27年には、旭川空港での展示を見たテニス関係者からの依頼で、国際的なテニス大会のチャリティーイベント用に、テニスをするクマを製作するなど、作品の幅が広がっています。

菅野さんは「これらは一例ですが、旭川の木彫製品が変わりつつあることを市民の皆さんに知ってほしい。これからも、北海道産の木材を使って、旭川ならではのオリジナリティーのある製品を作っていくので、関心を持っていただければうれしいです」と話します。

【詳細】工芸センター

☎66・1770